

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	令和2年度第3回東村山市立学校自閉症・情緒障害特別支援学級開設準備委員会			
開催日時	令和3年1月27日(水)午後3時30分～午後4時10分			
開催場所	東村山市役所 本庁舎6階 第2委員会室			
出席者及び欠席者	●出席者： (委員) 三田村委員長、小泉副委員長、高橋委員、大塚委員、植場委員、小原委員、鈴木統括指導主事、足立子ども・教育支援課長、北條指導主事、進藤子ども・教育支援課長補佐、齊藤教育総務課施設担当係長、清水子ども・教育支援課就学相談員、森合子ども・教育支援課子ども相談員 (市事務局) 湯浅崎子ども・教育支援課主任、新妻子ども・教育支援課主事 ●欠席者： 八木子ども・教育支援課子ども相談員			
傍聴の可否	可	傍聴不可の場合はその理由	傍聴者数	2名
会議次第	1. 挨拶 2. 議事 (1) 自閉症・情緒障害特別支援学級の愛称 (2) 自閉症・情緒障害特別支援学級の開級に向けて ・入級予定状況 ・教育課程について ・教室の整備状況について ・萩山小学校からのお知らせ 3. その他			
問い合わせ先	教育部子ども・教育支援課特別支援教育係 〒189-8501 東村山市本町1-2-3 電話番号 042-393-5111 (内線 3444)			
会 議 経 過				
1、挨拶 ○子ども・教育支援課足立課長より挨拶 本日は、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言が発令されている最中での開催ということで、私どもとしてもこうして開催すること自体、正直迷いが				

あったが、皆様のご協力とご理解のもと、ここまで進めさせていただいているため、時間を短縮して開催させていただければと思う。

さて、第3回という事でいよいよ4月からの自閉症・情緒障害特別支援学級開設に向けて最終段階にきているものと考えている。この後説明があると思うが、本日は学級名称や開設される萩山小学校の教室の様子等を含めて報告させていただければと思う。限られた時間ではあるが、宜しく願いたい。

2、議事

(1) 自閉症・情緒障害特別支援学級の愛称

○事務局より説明

前回の委員会での提案に基づき、投票数の多い順から3案をいただき、1月6日に開催された教育委員会で承認いただいた名称を報告させていただく。

愛称は、「あじさい学級」。名称の由来として、萩山小学校では、地域との結びつきが非常に強く、地域の皆様に植えていただいたあじさいが正門から南門、そして東側の校庭のフェンス脇で、毎年、素敵なお花を咲かせてくれていること。また、花言葉として、「和気あいあい」「団らん」「家族」などがあり、仲良く、そして学校に来ることが楽しい学級にふさわしい名称ではないかといった意見によるものである。

特別支援学級や特別支援教室が、「青葉学級」や「けやき教室」といった植物に関連する名称の流れも汲んでいる。

市民周知については、令和3年6月発行予定の市内全戸配布される「きょういく東村山」に萩山小学校にこの学級が開設されたことに加え、愛称についても掲載する予定である。その際、教室の一部写真を載せるなども検討している。また、特別支援教育関係のリーフレットなどにも掲載し、周知していく予定である。

【委員長】

何か質問等はあるか。

(意見特になし)

【委員長】

それでは続いて、自閉症・情緒障害特別支援学級の開級に向けて事務局より説明をお願いする。質問は、説明後に時間を設ける。

(2) 自閉症・情緒障害特別支援学級の開級に向けて

○事務局より説明 (入級予定状況)

転学相談及び就学相談を経て入級予定となったお子さんについては、現時点で、新1年生3名、新2年生1名、新3年生1名、新4年生1名、新5年生4名、新6年生2名、合計12名の2学級のスタートとなる見込である。

なお、保護者のかたと校長先生の面談を2月に予定しており、その中で、校長先生から具体的な話も含めて対応いただければと思う。

○事務局より説明（教育課程について）

次年度、萩山小学校に開設される自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程についての進捗状況をお伝えする。

現在、次年度の教育課程の編成を萩山小学校と連携して進めている。概要については前回ご説明したとおりであるが、東京都では、自閉症・情緒障害特別支援学級は知的障害のない自閉症または情緒障害の児童を対象とすることから、通常の学級に準ずる教育内容を行っていく。その上で、障害に配慮した学習として「自立活動」の時間を設け、それぞれの児童の学習上・生活上の困難を改善・克服していける指導も行う。自立活動の指導時間数については、特に規定はないが、他の教科等から自立活動に必要な時間数をとって実施していくため、本来の学習内容に大きな影響が出ない程度とし、学年が進行するにしたがって指導時間数が少なくなっていくように設定していく。また、自立活動については個別指導計画に基づき、個に応じて異なるものとして年間の計画を立てていくこととされている。従って、自立活動の時間数分は、他教科の指導内容や時数を一部変更して指導することになる。

学習の評価についても、通常の学習に準ずる。評価の一つに通知表があるが、他地域の取組状況を見ると通知表の様式や表記の方法については実態に応じて異なっている状況である。本市については、在籍児童の人数や学習の習熟度、通常の学級との関わり等を踏まえて学校で検討してもらうよう考えている。

また、特別支援学級においては、学級単位での遠足や宿泊を伴う行事等があるが、まずは通常の学級の校外学習や移動教室等に教科指導や交流学习の一環として参加し、その上で、指導時間の確保や実施上の安全の確保等を検討しながら学級単位の行事の実施を検討していく考えである。そのため、開設当初からの宿泊行事等が実施できるか否かは現時点ではお伝えできないが、今後の学級経営の中で検討していく。

次に、授業の指導形態についてであるが、基本的には学年ごとに当該の教科書を使用して指導をしていく。ただし、現時点で予測される児童数によると、学級編制が1・2年生で1組、3・4年生で2組目、5・6年生で3組目というような複式学級になることが予想される。複数学年を1つの学級で指導する場合、双方の学年を一斉指導で行うよう指導内容を組み替えて、2学年の学習内容を2年計画で指導する方法や、1人の教員が各児童を交互に指導する「わたり・ずらし」と呼ばれる指導方法で対応することが考えられる。

また、他地域では通常の学級での指導に参加する形態で学習の習熟度に対応する等の工夫を行っている。その他に、担任以外の指導者を配置して習熟度別の授業や図工、音楽等の専科の指導を講師の担当にしている事例もある。

こうした実践から、自閉症・情緒障害特別支援学級においては、通常の学級に準ずる学習を行うために様々な工夫をしながら指導をしていくことが考えられる。そのためには、学校全体で自閉症・情緒障害特別支援学級の理解を深め組織的に指導をしていく必要がある。従って、次年度萩山小学校においては、校長先生を中心に校内研修等を積極的に実施していただき、在籍する児童への指導体制の幅を広げていけるよう教育委員会で支援していきたいと考えている。

○事務局より説明（教室の整備状況について）

今回、特別支援学級開設に向けて整備を行った教室は、1階については2教室、2階については5教室で合計7教室である。各教室の大きさについては、一般的な教室と同程度の広さを有する教室が2教室、また、一般教室の半分程度の広さ

に間仕切る教室を5教室整備した。

写真が掲載されている3枚の資料をご覧ください。

始めに、左上に「特別支援学級 教室」と記載されている1枚目の資料は、一般教室と同等の広さを有する教室である。本教室については、床・壁・天井及び設備の改修を実施している。工事の内容であるが、床と天井は既存の部材を撤去し、新設している。壁については一部塗装による塗り替えを行い、一部の部材については床・天井と同様撤去・新設をしている。次に設備について、照明器具はLED化を行い、各照明にガードを設置して直接照明器具に衝突することが無いように安全対策を図っている。また、本資料の写真には掲載していないが、各教室にはエアコンを設置している。

次に裏面及びもう1枚の間仕切り壁が掲載された資料をご覧ください。本資料は、一般教室の半分程度に間仕切った教室を掲載している。こちらの教室は、間仕切り壁の可動が可能となっている。壁についてはマグネットが付く製品であるため、用途や状況に応じて工夫して使用することができる教室となっている。

最後に、本資料の裏面及び黒板が掲載された資料をご覧ください。今回の工事で設置をした黒板については、高さ調整ができる製品を採用しており、先生方だけではなく、児童も使いやすい高さに調節して使用することが可能となっている。また、設置をした黒板については、写真の通り横から見てみると湾曲しているため、正面だけではなく両サイドの席からも従来の黒板より見やすい仕様となっている。

○事務局より説明（消耗品等の調達について）

教室の整備状況の流れのなかで消耗品・備品の調達の状況について説明させていただく。2月に入札を行い、受注業者を決定し、3月中旬ごろには納品完了を目指したいと考えている。

自閉症・情緒障害特別支援学級は、通常の学級に準ずる教育課程となることから、既に校内にある教材などは共有していただきながら、昨年より開設準備委員会委員と必要に応じた備品の選定を進めている。その際、以前行った開設準備委員会での視察や、第2回委員会にご出席いただいたオブザーバー増田先生のご助言も参考に精査している。クールダウンや視覚刺激を調整するための連結型パーテーションや時間の切り替えを視覚的にとらえるためのタイマー、体を使い発散を促すトランポリンや運動用のボールなどを購入する予定である。

また、Web会議等で使用されている広角360°カメラの購入により、別室での授業参加やコロナ禍対応の密を避けた授業形態を組むなどに役立てられるかと考えている。

○委員長より説明（萩山小学校からのお知らせ）

今後、交流活動を実施する上で教員の理解がより一層進まないといけないので、この3学期は東京学芸大学准教授の増田先生にきていただき校内研修をする予定になっている。そして、次年度の1学期にはこの学級の保護者と個人面談も予定している。今年度は、入級予定のかたと面談を行うが、新しくできた自閉症・情緒障害特別支援学級の教室をご案内し、実際に見ていただこうと思っている。本当に素晴らしい施設を市により準備していただいたこと感謝申し上げます。使い勝手がよく非常に綺麗なため、子供達も喜んでこの教室で学ぶことができるのではないかと考えている。保護者のかたとお子さんご一緒に教室をみていただき4月からここで勉強するのだという気持ちを新たにしてもらえるとありがた

い。また、その中で保護者のかたが望むことや心配事などの話を聞いて、4月の開設に向けてこちらもしっかりと準備をしていきたいと思っている。

【委員長】

全体を通じて何かご質問等はあるか。
(意見特になし)

【委員長】

続いて、次第「3. その他」について事務局より説明をお願いします。

○事務局より説明

2点ほど、ご案内申し上げます。

まず、1点目として、開設に向けた今後のスケジュールだが、スクールバスは、2月より契約準備が始まり、入札等ののち、3月下旬頃までには受注業者が決定する予定である。その後、新一年生や転学されるご家庭に利用のご希望を伺い、進めていく。なお、学区範囲が市内全域であるため、例えば北ルートと南ルートなど、2コースを想定している。他に、東京都への学級編制に関する書類や施設関係の補助金に関する書類などの提出を3月に控えている。

2点目として、次年度以降の転学の流れについてご案内する。4月よりあじさい学級が開設されることから、今までの固定学級への転学手続きと同様の流れになる。転学の相談に関しては、随時、子ども・教育支援課特別支援教育係（いきいきプラザ4階）にて受付を行う。見学や体験入級、校長面談を行い、転学申込みの受付後、ケース会議を経て転学先を決定していく。年内12月までに転学申込みの受付をされた場合、転学の時期は基本的に、新年度4月からの転学となる。しかし、他地域から東村山市への転入やお子さんの様子によって速やかな対応が必要な場合等の事情によっては、年度途中の転学も考えられるため個別にご相談をさせていただければと考えている。実際の見学可能な時期については、あじさい学級に在籍する児童の特性を配慮し、6月位からを想定しているが、実際には学級担任との調整が必要と考えている。

また、従来だと「学校公開」などで、学級の様子を伺えるところであるが、コロナ禍の感染拡大防止の対応から当面の間は、今年度同様、「学校公開」自体の自粛も考えられる。保護者のご心配もあるかと思うが、ご理解いただきたい。

【委員長】

何かご質問等はあるか。

【委員】

少し戻るが、教育課程のところで、どのように通常の学級と交流する機会を持つようとしているのかももう少し詳しくお聞きしたい。また、5～6年生の人数が多いが、校外学習への参加について伺いたい。通常の学級の5～6年生だと宿泊学習等が増えると思うが、学級が始まって1年目、転入してすぐのクラスにも慣れなければならない時期に通常の学級と一緒に活動しなければならないとなると相当ストレスがかかってしまい大変な気がするが、その辺決まっていることがあれば教えてほしい。

【委員】

まず、交流学习についてであるが、運動会等の学校全体の行事は、通常の学級と同じように参加することを考えていきたい。また、学年毎の行事についても、お子さんの様子を見ながらできる限り参加していければと考えている。その他に日常的に給食や掃除の交流をしている学校もあるが、これらは学校の現状にもよると思うので開設当初からは難しいかもしれない。ただ、今後交流が深まるにつれて可能なものについては一緒に行くことは大いに考えられる。

次に、5～6年生の校外や宿泊を伴う学習については、できるだけ一緒に活動し、学習を進めていきたいと思っている。ただ、お子さんの精神的負担に大きく影響する部分もあると思うので、本人の意向や保護者との連携の中で十分検討して個々の配慮を行っていければと考えている。

【委員長】

学校としてもできるだけ保護者、子供たちに寄り添いながら丁寧に話をしていきたいと思っている。その他ご質問等いかがか。

【委員】

自閉症・情緒障害特別支援学級を設置してどうだったのか等、全体の評価や振り返り等はしていくのか。もしするようであればどのように行うのか教えていただきたい。

【委員】

私どもも初めて開設する学級であるため、担任も含めてご相談をさせていただきながら、保護者のかたへアンケート等を通して生のお声をいただけるような機会を設けさせていただきたいと考えている。それを基に学級運営において改善できること等を模索して、より良い学級作りに役立てたいと考えている。

【委員長】

萩山小学校としても、通常の学級と同様に年に2回、児童アンケートや保護者アンケートを行いながら教員が振り返りや改善を行っていくので、ご安心いただきたい。その他質問等いかがか。

(意見特になし)

それでは本日をもって委員会は最終回となる。皆様、一年間という長丁場、ご協力いただき感謝する。私自身も次年度に向けて全力でやっていきたいと思っているが、これだけ大勢のかたに真剣に考えていただけて私達も非常に心強い。是非成功させ今後も安定して学級が続けられるように尽力したいと思っている。以上をもって終了する。それでは、事務局にお返しする。

【事務局】

令和2年度第3回東村山市立学校自閉症・情緒障害特別支援学級開設準備委員会を終了する。